

島根県立大1年生の平岡都さん(当時19)の切断された遺体が2009年11月に広島県北広島町の臥竜山で見つかった事件で、島根、広島両県警合同捜査本部は遺体発見直後に交通事故で死亡した30代の男について、被疑者死亡として殺人と死体遺棄容疑で、20日にも書類送検する方針を固めた。捜査関係者への取材でわかった。

09年遺体発見の2日後死亡



平岡都さん
＝島根県警提供

捜査関係者によると、事件に関与した疑いがある男は、遺体が見つかった北広島町に隣接する島根県益田市に事件当時住んでいた。遺体発見の2日後に山口県内の高速道路で単独事故を起こして死亡。男の周囲から、事件後の平岡さんとみられる画像データが見つかり、捜査線上に浮上したという。捜査本部は男が平岡さんと面識があったかどうかを調べている。

死体遺棄容疑については12年に公訴時効(3年)を迎えているが、当初から死体遺棄事件として捜査していたことから、捜査本部は同容疑でも書類送検するとしている。

管の中すくすく一直線

霜が降り、季節は冬へと急ぐ。11月中旬、鳥取との県境に近い兵庫県赤松市波賀町の山あいの段々畑に、高さ50センチほどの白い畝が波打つように連なっていた。近づくにつれ、雪が積もったように見えたのは、土の温度の上昇を防ぐために敷かれた白い遮光シート。「この下に自然薯があるんや」。農家の岡田太さ

ん(71)がクワを振り上げ、勢いよく畝を掘り始めた。かつて一帯は山野に自生する「天然もの」で知られた。だが、採りすぎたため1980年ごろから畑で栽培が始まった。「春の土寄せ」と呼ばれる畝づくりは、5月の連休明けから始まる。岡田さんはクワで計10畝の畑を耕し、最長45分にも及

ぶ畝を作る。水はけの良い所を好む自然薯の栽培で、最も大事な作業だ。畝の中に長さ140センチほどの専用のパイプ(直径約10センチ)を寝かせるように並べ、種イモを置いて上から土をかぶせる。自然薯はこのパイプの中で真っすぐに育つ。

「パイプを持てば重さで良いものが分かる」。岡田さんは手にしたクワを園芸用スコップに持ち替え、パイプの周りの土を丁寧に除いて掘り出していく。「最高や。とろろにして食べれば疲れもすつ飛ぶ」。白い歯を見せる岡田さんの手には、太くて真っすぐな長さ120センチを超える「大物」があった。

関西
食百景

121

3面に続く

中国、米の無人潜水機奪う

南シナ海海洋調査中



米海軍と英海軍の演習で、グライダー型の潜水機を回収する英国船の乗員。類似した無人潜水機が中国船に奪われた。今年10月撮影の米海軍の資料写真＝AFP時事



米国防総省のデビッド・スミス海軍の海洋調査船の無人潜水機が中国海軍の艦船に奪われたと明らかにした。「国際法違反」として、外交ルートを通じて速やかに返却するように求めた。

方不明になった。島根県警は同11月2日に公開捜査に踏み切ったが、4日後の同6日、臥竜山で遺体の一部

合同捜査本部はこれらの情報を重視し、不審車両の洗い出しやポリ袋片をNTTの電話帳の配布用と特定し、その配布エリアを捜査するなどしてきた。

性能がある。デビッド氏によると、海軍の海洋調査船「パウディッチ」が15日、フィリピン

求めたが、中国艦船は無視してその場を去ったという。中国側の行動の理由は明らかにしていない。

たことが明らかになった。中国の対応を批判していた。(ワシントン＝峯村健司)



土から掘り起こされたパイプの中に、太く真っすぐな自然薯が育っていた。折れないように慎重に取り出す＝兵庫県赤松市



すりおろした自然薯は、持ち上げると大きな一つの塊になった＝兵庫県宍粟市

粘りもっちり 昼夜の寒暖差が生む

1面から続く

山の紅葉も終わりを迎えるころ、自然薯栽培が盛んな兵庫県宍粟市波賀町周辺は、収穫の喜びに包まれる。

地元の農家の岡田建彦さん(72)は今年2月、「自然薯まつり」(3、4日)を控え、妻の「重さん(69)と会場の道の駅「みなみ波賀」で販売用のところ作り」に追われていた。「この粘り、すごいでしょ」。すりこぎを握り、すりおろした自然薯をこねていた建彦さんの顔がほころんだ。昼夜の寒暖の差が大

きいため、宍粟産は粘りが強いという。建彦さんが大鍋の中から両手で持ち上げると、つきたての白い餅のように伸びた。

まつりでは、自然薯が通常より1割ほど安い1本2千〜3千円ほどで買えるところあって、今年も京阪神などから計約1700人が訪れ、約900本が完売した。「自然薯は波賀のふるさとの味。この時期が来ると心が躍る」と建彦さんは言う。

地元のJAハリマ自然薯部会によると、宍粟市は県内最大の

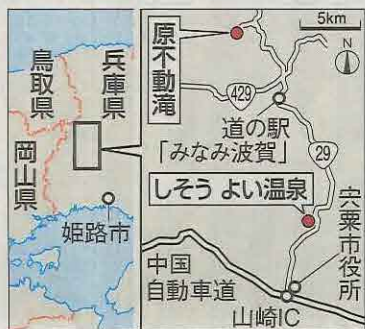
産地で、波賀や一宮、千種などの地域で年間計5、6千トンが生産される。集荷するJAから仕入れ、店頭とインターネットで販売する道の駅「みなみ波賀」では今年に入り、お歳暮の贈答用の箱詰め作業がピークを迎えている。運営する市の第三セクター「宍粟マイプル」の一野博文さん(54)が、自然薯同士が擦れ合わないように手作業で1本ずつ細長いポリ袋に入れ、乾燥を防ぐおがくずを詰めていく。

「皮がむけるとカビが生えるし折れると商品価値が下がる。きれいな白い肌のまま届けたい」

地元以外で宍粟の自然薯を味わえる店の一つが、姫路市の「串カツ屋七星」。オーナーの作本忍さん(34)は昨冬、道の駅のネット販売で初めて取り寄せた。生のままかじると、メロン

のような香りが口から鼻に抜けた。すりおろしてかけた白いご飯。「とろろの強い粘りと鮮烈な風味にほれた」。常連客から「うまつ」と声があがった。すぐに看板メニューに加えた。

11月中旬、作本さんは今季初めて届いた自然薯で新メニュー



訪ねる

◆原不動滝 永ノ山後山那岐山国定公園内にあり、日本の滝百選にも選ばれている。入

場料は大人200円、小学生以下100円。☎0790・75・2355(楓香荘 くふうかそう)

◆しろうよい温泉 冷鉱泉の日帰り温泉。内湯や露天風呂のほか、車椅子のまま入浴できる「こだちの湯」(要予約)がある。☎0790・63・2615

文・高橋孝二
写真・遠藤真梨

自然薯は日本原産で、古くから山野に自生してきた。伝承料

マノイモ属だが、中国原産。自然薯を栽培品種にしたのがナガ



。兵庫県233

1人に。記し、千間「関西

パイプを使の農園をた、おつします。com/dr57

「宮本屋」(京都府亀岡市) 独特の歯ごたえと香りは、やはり他のキノコとは別格。(亀岡市 山崎弥生さん 48歳)

来週は広島県福山市のクワイを紹介します。

大学グループ

企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局

第一部

●オープニングパフォーマンス「舞太鼓 あすか組」

豪華声優陣からのプレゼントが

応募要

大学ホームページからお申し込みください
www.osaka-geidai.ac.jp/geidai/kh/sg/

